

演習問題 20 DMF 歯率, DMFT 指数

A組の5名の口腔内状況を学校保健安全法に基づく歯科健康診断の記号(表2)で示す。

表2 歯式の欄(「保健情報統計学」p.41)

永久歯	記号	説明
現在歯	-, /, \	現在萌出している歯は, 斜線または連続横線で消す。過剰歯は数えず, 「その他の疾病及び異常」の欄に記入。
要観察歯	CO	視診では明らかな窩のあるむし歯と判定できないが, 生活習慣に問題があり, 放置するとむし歯に進行すると考えられる歯。学校での生活習慣改善のための保健指導を基本とし, 必要に応じて地域の歯科医療機関における専門管理も併行して行う。
むし歯(D)	C	視診にて歯質にう蝕性病変と思われる実質欠損が認められる歯。2次う蝕も含む。確定診断ではないのでC ₁ , C ₂ , C ₃ は全てCと記入。治療中の歯もCとする。治療等のため受療が必要。
喪失歯(M)	△	むし歯が原因で喪失した歯。乳歯には用いない。 ※むし歯以外の原因で喪失した歯(例: 矯正治療, 外傷等)および先天性欠如歯はDMFのMには含まない。
処置歯(F)	○	充填, 補綴(冠, 継続歯, 架工義歯の支台等)によって歯の機能を営むことができる歯。
シーラント処置歯	⊙(補助記号)	健全歯の扱い。歯式に記載の必要があれば⊙の記号を使用する。
歯周疾患要観察者	GO	歯肉炎が認められるが, 歯石沈着は認めず, 生活習慣の改善と適切なブラッシング等の保健指導を行うことで改善が望める者。
歯周疾患要処置者	G	精密検査や治療等のため受療が必要な者。
歯石沈着	ZS(補助記号)	歯肉炎を認めないが歯石沈着がある者。Gとせず, 「0」と判定し, 学校歯科医所見欄に「歯石沈着」あるいは「ZS」と記入し受療を指示する。
乳歯	記号	説明
現在歯	-, /, \	現在萌出している歯は, 斜線または連続横線で消す。
要観察歯	CO	永久歯の要観察歯(CO)に準ずる。
むし歯(d)	C	永久歯に準ずる。
処置歯(f)	○	永久歯の処置歯の定義に準ずる。
要注意乳歯	×	保存の適否を慎重に考慮する必要があるとみとめられる乳歯。
サホライド塗布歯	⊕(補助記号)	COと同様の扱いとするが, 治療を要する場合にはCとする。サホライド塗布歯であることを歯式に記載の必要があれば⊕の記号を使用する。
シーラント処置歯	⊙(補助記号)	永久歯に準ずる。

(一般社団法人日本学校歯科医会: 学校歯科医の活動指針平成27年改訂版)

DMF 歯率, DMFT 指数を求めよ。

①

上	右	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	左	上
下	右	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	左	下
		斜線												斜線	
		C													

D = [37] M = [38] F = [39]

②

上	右	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	左	上
下	右	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	左	下
		斜線												斜線	
		C													

D = [40] M = [41] F = [42]

③

上	右	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	左	上
下	右	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	左	下
		斜線												斜線	
		○													

D = [43] M = [44] F = [45]

④

上	右	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	左	上
下	右	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	左	下
		斜線												斜線	

D = [46] M = [47] F = [48]